

# 第66回東海村地域福祉計画推進会議 議 事 録

作成：藤田

- 1 日 時 令和5年12月25日（月）午後5時30分～7時30分
- 2 場 所 403会議室
- 3 出席者 地域福祉計画推進会議委員 8名（欠席：江里委員，高際委員，  
大沼委員）  
アドバイザー：稲垣美加子先生（淑徳大学教授）  
事務局：山口課長，大内補佐，小原澤係長，檜山主任，田所主事，藤田

## 結 果

### 5 議事

- (1) 第4次地域福祉計画の進行管理及び評価方法について  
・事務局から説明
- (2) 住民評価の演習  
・施策の方向性（1-1）の評価  
→個人作業及びグループ内共有
- (3) 中間評価方法について  
・事務局から説明
- (4) その他  
・次回以降の案内について  
→次回の会議は，2月下旬～3月上旬に実施予定。

## 1 開 会

### 2 事務局あいさつ（山口課長）

### 3 委員長ごあいさつ（有阪委員長）

中間評価は初めての経験であるため、皆さんと一緒に勉強したい。本日はよろしくお願ひする。

### 4 アドバイザーごあいさつ（淑徳大学教授 稲垣美加子先生）

今回の会議は、次のステップのための大事な評価の場である。今日の内容を頭の片隅に入れていただき、多くの方と会う年末年始を日々の暮らし等といった様々な話を聞く機会にしていただきたい。そして、住民評価の際に多くの方から集めた情報を生かして評価いただきたい。本日はよろしくお願ひする。

## 5 議 事

### （1）第4次地域福祉計画の進行管理及び評価方法について

事務局から配付資料に基づき説明をおこなった。

- ・第4次地域福祉計画の進行管理は、「計画・実施・点検・見直し」の循環（PDCAサイクル）により、定期的に地域福祉計画推進会議に諮りながら、最終的な見直しの方向性や内容を決定している。
- ・計画の策定，施策の実施，行政評価・住民評価でのチェック，方針や施策の見直しを継続的におこない，次期計画につなげている。
- ・行政評価は行政が実施した事業等の実績を自己評価し，住民評価は行政が実施した事業等の実績が住民にどのような影響，効果を与えたかを住民が評価する。
- ・地域福祉計画は5年計画であり，3年目に実施するのが中間評価，5年目に実施するのが総合評価である。
- ・3年目（令和5年度），5年目（令和7年度）の2回，住民評価を実施している。
- ・住民評価は，施策の方向性（15項目）を評価いただく。
- ・各委員（住民）の立場から，行政による事業実績及び事業推進状況が地域住民の生活にどのような影響を与えたかをポイントに評価いただきたい。
- ・住民評価は，タスク・ゴール，プロセス・ゴール，パートナーシップ・ゴールの3つの視点から評価いただく。
- ・評価の際に気になったキーワードをメモで残していただきたい。

#### 【質疑・応答】

委 員：15項目評価するには，ある程度の専門性や理解がないと難しいのではないか。

稲垣先生：社会福祉は利用者主体といわれており，住民に一から計画を作成してもらうのが理想であるが，住民が計画を作成するのは難しいため，行政が代わりに作成している。住民主体の計画にするため，行政が作成した計画を住民に合う計画に変えていく必要がある。皆さんから意見を聞いたり，住民評価をおこなったりすることで住民に合う計画に変えることが

できるため、地域の方に話を聞き、計画の内容や活動が地域に還元されているか確認いただきたい。全ての項目について評価できるか分からないとの意見があったが、そのために会議で話し合う機会がある。会議で誰からも意見が出なかった場合は、行政が思っているより計画や活動の効果が上がらなかったということにもなる。多くの方の率直な声を集めていただき、次期計画につなげていただきたい。

## (2) 住民評価の演習

配付資料に基づき演習をおこなった。

- ・個人作業及びグループ内共有

### 【質疑・応答】

委員：具体的な施策一つひとつを評価するのではなく、行政による「施策の方向性」がどうだったのかを評価すれば良いのか。

事務局：そうである。施策の方向性の達成のために具体的な施策をおこなっている。行政評価は具体的な施策一つひとつを評価しているが、住民評価は施策の方向性（15項目）について3つの視点から評価いただきたい。

## (3) 中間評価方法について

事務局から配付資料に基づき説明をおこなった。

- ・各委員の点数評価について、事務局で委員全体の平均点数評価の合計を算出し、±2点毎に1段階ずつ行政評価を補正させたものを最終的な中間評価とする。

(例) 行政評価：B，委員全員の平均点数評価の合計：2.5点 → 中間評価：A

### 【質疑・応答】

委員：中間評価の結果は住民に開示されるか。また、住民評価と行政評価も開示されるのか。

事務局：公開する予定である。詳細は未定だが、住民が分かりやすい方法での公開を考えている。

### 【稲垣先生のコメント】

住民評価について、自分たちのためになるか、様々な困り事を抱えている方の代わりの声になるかを考えていただきたい。この会議に参加している方は、会議に参加できるくらいの生活の安定度がある。参加が難しい方の立場になって評価が適切か考えていただきたい。現在の評価方法だと、マイナスの点数が積み上がらないと中間評価が下がることがない。たとえ行政が問題意識を持っていても、住民評価が高いと中間評価が上がってしまい、現在の計画内容で問題ない、サービスを変える必要がない、という結果になってしまう。遠慮なく、地域で声を出せない人、困り事を抱えている人、未来を担う子どもたちの立場で評価いただきたい。

## (4) その他

- ・今年度の会議は、全3回を予定している。
- ・次回の会議は、2月下旬～3月上旬に実施予定。開催3週間前までに案内を送付する。

- ・次回の会議内容は、施策の方向性について説明し、残りの14の評価項目について理解を深めてもらう。
- ・14項目の中間評価は、次回の会議終了後2～3週間で作業いただく予定である。
- ・作業後は評価シートを提出いただき、事務局が取りまとめたうえで委員の皆さんに中間評価結果を報告する。
- ・委員の皆さんへの中間評価の結果報告の方法は検討中だが、郵送での報告や次年度の1回目の会議で報告する予定である。

## 6 閉 会